

## 作業学習で身につけさせたい力 ～中学部・高等部での連携～班

### ア 研究のねらい

中学部、高等部職員による、作業班チーフを中心とした縦割りの研究チームを編成し、各作業に関する情報交換を十分に行ったうえで、本校の特色をふまえた作業学習全体計画の基礎となるものを考案する。

### イ 研究の内容

- 情報交換により、各作業班の目標や内容について共通理解を図った。
- 在学時から卒業後までのライフスタイルを見通し、本校の作業学習で「身につけさせていくべき力」について共通理解を図った。
- 他県や他校の作業学習について情報収集を行った。
- 作業学習全体計画の基礎となるもの、つまり、『作業学習で身につけさせたい力』について意見交換と構想を行った（可能なら次年度も継続し、具体的な構想図の完成を目指す。）。

### ウ 成果と課題

#### (1) 成果

- 各作業班の目標や内容について、実際の作業場所で作業チーフが具体的な説明を行うことで、共通理解を図ることができた。
- 卒業後の生活までを見通した、作業学習で「身につけさせていくべき力」について共通理解を図ることができた。
- 他県や他校の作業学習について情報収集を行うことができた。

#### (2) 課題

- 作業学習全体計画の基礎となるもの、つまり、『作業学習で身につけさせたい力』の完成には至らなかった。可能ならば、次年度も継続研究を行い、具体的な構想図の完成を目指したい。

### 【引用・参考文献】

- ・ 岩手県立総合教育センター・特別支援教育室（2008）  
『特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック』
- ・ 福井県立福井南特別支援学校（2016）  
『福井県立福井南特別支援学校ホームページ 中学部・高等部 作業学習について』

## 高等部の教育課程と授業改善班

### ア 研究のねらい

現在の高等部の教育課程がつくられた経緯を、どの職員が見ても分かるようまとめたものを作成し、特にⅢ課程の意義を明らかにすることで、クラス編成の作業がスムーズに進み、職員が見通しをもって指導に取り組むことができるようにする。

### イ 研究の内容

- 現在の高等部の教育課程における課題の整理
- 「高等部教育課程Q&A集」の作成

### ウ 成果と課題

#### (1) 成果

- これまでの取組と、各学年の実態、具体的な生徒の様子を照らし合わせ、現在の高等部の教育課程における課題を整理することができた。また、職員間で、本校の在籍年数の違いにより、現教育課程への移行の経緯に関する認識に差が見られたため、話し合いを重ね、共通理解をはかることができた。
- 本校の職員向けに、「高等部教育課程Q&A集」を作成することができた。これは、毎年度見直していき、加筆・修正等をしていくものである。今年度は、全職員に配布し、次年度から、高等部職員必携の一部として、活用させたいと考えている。
- 「高等部教育課程Q&A集」の作成を通して、学校全体の「通常学級・重複学級」といった呼び方や、小学部・中学部・高等部それぞれに通常学級に抱くイメージや実態の違いに驚いた。特に、中学部から高等部への進学において、通常学級における、職員や保護者、生徒間でのイメージのギャップは大きいのではないかと、といった意見が多く出された。したがって、小学部・中学部段階から、「通常学級・重複学級」ではなく、高等部が用いている「Ⅰ課程・Ⅱ課程」という呼び名に統一することで、生徒や保護者、職員が抱くイメージをできるだけ統一することができないだろうかと考え、学部研究の際に提案した。小学部では意見が分かれたものの、中学部と高等部からは全体的に賛成の意見をいただいた。この結果を教務主任に報告し、今後は教務部を通じて、学校全体の議題として取り扱うことになった。

#### (2) 課題

- 今回作成した、「高等部教育課程Q&A集」に、Ⅱ課程・Ⅲ課程については、詳しく記すことができたが、Ⅰ課程 i ii iiiのクラス編成等、Ⅰ課程についての詳しい部分までは、明記することができなかった。生徒の事例と照らし合わせながら、次年度引き続き検討していきたい。

## 高等部教育課程編成に関するQ & A集

教育課程の編成について（高等部職員向け）

Q 1 高等部の教育課程は、どのように編成されていますか。

A

本校は、知的障害のある子どもや、肢体不自由のある子どもが通う知肢併置の学校です。小学部、中学部、高等部があり、それぞれの教育課程は、通常学級と重複学級で編成されています。

本校の高等部は、通常学級と重複学級で入学選考を行います。教育課程は、重複学級をⅠ課程（Ⅰ－ⅰ、Ⅰ－ⅱ、Ⅰ－ⅲの3つの課程に分かれています。）、通常学級をⅡ課程とし、さらに、2学年と3学年の通常学級は、Ⅱ課程とⅢ課程で編成しています。

- 高等部の作業学習については、Q 2を参照してください。
- Ⅰ課程、Ⅱ課程、Ⅲ課程の授業や特徴については、Q 3を参照してください。
- Ⅱ課程とⅢ課程の編成については、Q 4とQ 5を参照してください。
- Ⅰ課程などの名称は、法令等で指定されているものではなく、各学校それぞれで決めています。

	重複学級	通常学級	
1学年	Ⅰ課程	Ⅱ課程	
2・3学年	Ⅰ課程	Ⅱ課程	Ⅲ課程

表1 Ⅰ課程、Ⅱ課程、Ⅲ課程について

Q 2 高等部の作業学習は、どのように編成されていますか。

A

高等部の作業学習は、高等部の生徒全員を、A・B・Cの3グループ、9つの作業班に分けて、各作業班で作業を進めています。Aグループは、2学年と3学年のⅢ課程の生徒が、流通サービス班、メンテナンス班に分かれて作業を行います。Bグループの6つの作業班は、1学年のⅡ課程の生徒、2学年と3学年のⅡ課程の生徒を中心に編成されます。受注班、農業班、木工班、手織り班、窯業班、手工芸班の6班です。Cグループは、1対1の指導支援を中心としたオープン班になります。Ⅰ課程の生徒の多くがオープン班に編成されます。

作業学習の授業は、月・水・金曜日の午前中に行われ、授業時数は、Aグループが水曜日の午後も作業学習を行うので11.5時間、B・Cグループが9.5時間です。曜日や学期で作業種を変えたりせ

ずに、1年間は同じ作業班に所属します。A・Bグループの作業班は単年度の所属とし、Ⅱ・Ⅲ課程の生徒は3年間で3つの作業班に編成されます。

中学部の作業学習とは、作業日や作業種、授業時数などが異なります。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1学年		Ⅱ課程の生徒だけで編成	Ⅰ課程の生徒だけで編成
2・3学年	Ⅲ課程の生徒だけで編成	主にⅡ課程の生徒で編成 (実態に応じて、一部のⅠ課程の生徒も加わる)	主にⅠ課程の生徒で編成 (実態に応じて、一部のⅡ課程の生徒も加わる)

表2 作業班の3グループの生徒編成について

Q3 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ課程、それぞれについて教えてください。

#### Ⅰ課程

Ⅰ課程は重複学級です。Ⅰ課程には、Ⅰ－i、Ⅰ－ii、Ⅰ－iiiの3つのグループがあります。

- A**
- Ⅰ－iは、より個別の指導が必要な生徒が対象で、自立活動が週6時間設定されています。自立を多く取り入れ、個にあった指導を展開しやすくなっています。
  - Ⅰ－iiは、自立活動が週4時間設定され、自立・生単のバランスが取れたグループです。
  - Ⅰ－iiiは、自立活動が週3時間設定されています。生単がi、iiより多く設定され、教科を取り入れた学習も可能になります。学年の実態に応じて、iとiiiの2グループになっているなど、生徒の実態に応じてグループ編成されています。
  - 各教科を合わせた指導として、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習、教科別の指導として、音楽、保健体育、領域別の指導として、自立活動、特別活動の授業があります。総合的な学習の時間も学年によって設定されます。
  - 日常生活の指導、生活単元学習、自立活動、特別活動は主に学級で行います。生活単元学習では、学級での授業の他に、合同生単が年間計画に沿ってⅠ課程合同で行います。
  - 作業は、1年次はCグループ(オープン班)で活動します。2・3年次は実態等に応じてBグループ・Cグループで作業を行います。
  - 保健体育は、学年生徒全体での合同授業です。
  - 音楽は、学年の生徒全員での合同授業、学年全体を2グループに分けた合同授業があります。Ⅰ課程では、音楽自立の学習も週1時間設定されています。
  - 進路の実績は、生活介護、自立訓練等です。

#### Ⅱ課程

Ⅱ課程は、通常学級です。Ⅰ課程との違いは、教科別の指導として、国語、数学、家庭、美術があること、日常生活の指導や生活単元学習、自立活動の時数がⅠ課程よりも少ないことです。

Ⅱ課程の授業などの詳細は、次の通りです。

- 各教科を合わせた指導として、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習、教科別の指導として、国語、数学、音楽、保健体育、美術、家庭、領域別の指導として、自立活動、特別活動で授業を行います。そして、総合的な学習の時間の授業も行います。
- 日常生活の指導、生活単元学習、自立活動、特別活動、総合的な学習の時間は、学級、もしくはグループで授業を行います。
- 作業学習は、Bグループの6つの作業班に分かれて作業を行います。Cグループのオープン班で作業を行う生徒もいます。
- 国語、数学は、Ⅱ課程の生徒を実態に応じて、3～5グループに編成して、授業を行います。
- 1学年の家庭は、Ⅱ課程の学級で2グループを編成して、前期と後期に分けて授業を行います。2・3学年の家庭は、Ⅱ・Ⅲ課程の生徒で2グループを編成し、前期と後期で家庭科一般と食物の授業を行います。
- 美術は、Ⅱ・Ⅲ課程の学級を2グループに分けて、授業を行います。
- 保健体育は、学年の生徒全員での合同授業を行います
- 音楽は、学年の生徒全員での合同授業や、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ課程を2グループに分けた合同授業を行います。
- 進路の実績は、一般就労(ファーストフード、産廃処理業 など)、福祉的就労(就労継続A型)、事業所利用(就労移行支援、就労継続B型)、県立産業技術専門校高鍋校入校(販売実務科)です。

### Ⅲ課程

Ⅲ課程は、2学年と3学年の通常学級の生徒で、各学年1～2学級(1学級は原則8名)で編成します。Ⅱ課程との違いは、生活単元学習と自立活動の授業が無いこと、職業と道徳、総合的な学習の時間の授業が毎週あること、作業学習がⅠ・Ⅱ課程より2時間多いこと(水曜日の5・6校時)です。

Ⅲ課程の授業などは、次の通りです。

- 各教科を合わせた指導として、日常生活の指導、作業学習、教科別の指導として、国語、数学、音楽、保健体育、美術、家庭、職業を、領域別の指導として、道徳、特別活動、そして総合的な学習の時間の授業を行います。
- 日常生活の指導、国語、数学、職業、道徳、特別活動、総合的な学習の時間は、学級で授業を行います。
- 作業学習は、Aグループの2つの作業班に分かれて作業を行います。
- 家庭は、Ⅱ課程の生徒と一緒に2グループを編成し、前期と後期に分けて、授業を行います。
- 美術は、Ⅱ課程の学級と合同授業を行います。
- 保健体育は、学年の生徒全員での合同授業で行います。
- 音楽は、学年の生徒全員での合同授業や、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ課程を2グループに分けた合同授業を行います。
- 進路の実績は、一般就労(スーパー、病院、工場 など)、福祉的就労、事業所利用、県立産業技術専門校高鍋校入校(販売実務科)です。

### I・II・III課程の合同授業などについて

- 各課程での授業の他に、性教育、進路学習、人権学習を、高等部、学年、グループ授業で行います。総合的な学習の時間も、学年で合同授業を行う場合があります。
- 参観日は、I・II課程の全学年の生徒全員で、生活単元学習の合同授業があります。2学年と3学年のIII課程は、特別活動の合同授業を行います。III課程は、職業なども、2つの学年が合同で授業を行います。
- 本校は児童生徒数が多く、学級数も多い状況が続いていますが、教室や特別教室を増やす等の対応ができていません。美術室、音楽室、体育館、視聴覚室、自立活動室などは、小学部や中学部も使いますので、使える曜日や時数も決まっています。そのために、3学年の音楽は、学年の生徒全員での授業を2時間行います。

【参考資料】表4 高等部の教育課程編制表

学級種別		通常学級			重複障がい学級		
学年 課程		1年	2・3年		1・2・3年		
		II	II	III	I-i	I-ii	I-iii
年間授業時数		35	35	35	35	35	35
基本週時数		30	30	30	30	30	30
年間授業時数		1050	1050	1050	1050	1050	1050
合わせた指導 各教科を	日常生活の指導	105	105	35	192.5	192.5	192.5
		3	3	1	5.5	5.5	5.5
	生活単元学習	87.5	153.5		117	187	222
		2.5	4.5		3	5	6
	作業学習	322.5	322.5	407.5	322.5	322.5	322.5
		9.5	9.5	11.5	9.5	9.5	9.5
教科別の指導	国語	68	35	68			
		2	1	2			
	社会						
	数学	68	35	68			
		2	1	2			
	理科						
	音楽	68	68	68	68	68	68
		2	2	2	2	2	2
	美術	68	68	68			
		2	2	2			
	保健体育	105	105	105	105	105	105
		3	3	3	3	3	3
	家庭	68	68	68			

		2	2	2			
	職業			57.5			
				1.5			
領域別の指導	道徳			35			
				1			
	特別活動	35	35	35	35	35	35
		1	1	1	1	1	1
	自立活動	35	35		210	140	105
		1	1		6	4	3
総合的な学習の時間		20	20	35			
				1			
<p>※ 各時数下段は週当たりの実施時数。</p> <p>※ 道徳、自立活動については、上記の時間における指導以外に全教育活動の中でも指導する。</p> <p>※ 空欄の教科については、各教科を合わせた指導において取り扱う。</p> <p>※ I 課程の「総合的な学習の時間」は、第2学年時のみ生活単元学習を20時間程度振り替えて実施。</p> <p>※ III 課程以外の「総合的な学習の時間」は、年間を通して特設した時間において取り扱う。</p>							

表4 高等部教育課程編成表・・・各課程の時数

Q 4 課程編成は、どのように行われるのですか。編成の基準などがあるのですか。

A

入学時の課程編成は、入学選考委員会で編成されます。また、2学年進級前に、本人・保護者の希望等を聞き取り、「各教育課程で大切にしたいこと・身につけさせたい力・生徒目標(表3)」を検討します。さらに「みや中央実態調査・作業実態調査・SM 社会生活能力検査・ASA発達検査等」を総合的に考慮して学年職員で編成検討を行います。

教育課程	大切にしたいこと	身につけさせたい力	生徒へ説明時の「目標」
I (重複学級)	・本人や家族のおもい ・楽しい雰囲気 ・様々な人との関わり	・意志や感情を色々な形で表現する力 ・皆と一緒に過ごせる力 ・身辺処理などの支援に応じる力	・自分の気持ちを色々な形で表現する。 ・みんなと一緒に過ごす。 ・できることは、自分です。困った時は、お願いもする。
II (通常学級)	・安心してのびのびできる環境 ・保護者・施設・寄宿舎との連携 ・本人が活躍できる場	・気持ちを伝える力 ・基本的な生活行動を自ら行う力 ・皆と一緒に活動できる力	・自分の気持ちを伝える。 ・自分のことは、自分でやろうとする。 ・みんなと一緒に活動する。
III (通常学級)	・本音をだせるような関係づくり ・社会生活や就労を見越した支援 ・将来の夢	・人と関わる力 ・自立して生活する力 ・余暇の過ごし方	・色々な人と関わり合いながら成長する。 ・自立して生活する。 ・仕事以外での自分のたのしみ

表3 「高等部 各教育課程で大切にしたいこと・身につけさせたい力・生徒目標」

- みや中央実態調査とは、国語・数学の実力テストの実施、作業学習での実態調査、SM 検査および ASA 検査、実態調査を行い、生徒の習熟度把握および実態把握に努めるものであり2学期から順次実施しています。
- 生徒への説明は、1学年の2学期後半に実施しています。



Q 5 なぜ、通常学級がⅡ・Ⅲ課程に分かれているのですか。

A

本校、高等部に入学してくる生徒の多様化、そして、療育手帳B2の生徒の増加に伴い、“これまでの教育課程が合わなくなってきたのでは・・・”といった意見が職員間で多く聞かれるようになりました。そこで、H23年度から、教育課程を見直すための話し合いをすることになりました。(図1:別紙参照)

自分が、“通常学級の担任であつたら・・・”という視点で、生徒にとって3年間でどのような授業が必要か、教科の特性やそれぞれの課程で、「大切にしたいこと・身につけさせたい力」について、約2年間かけて考えていきました。

「Ⅲ課程だから、必ず一般就労を目指す」ということではなく、“それぞれの生徒の実態、将来像を考えながら、一人一人の特性に応じた必要な授業を受けさせたい”という思いからスタートしたものです。

「Ⅱ課程は生活単元学習の時間を2.5時間確保し、体験的な学習を多くさせることが重要だよね。」

「Ⅲ課程は、職業や道徳の時間を設定し、自分の生き方や自立的な生活に向けての学習をさせることが必要だよね。」といった視点で始まっています。

- H23～H24年度に、Ⅲ課程の試行学級を作るなどしながら、移行期間を設けました。H25年度から、新教育課程を本格的に実施しています。

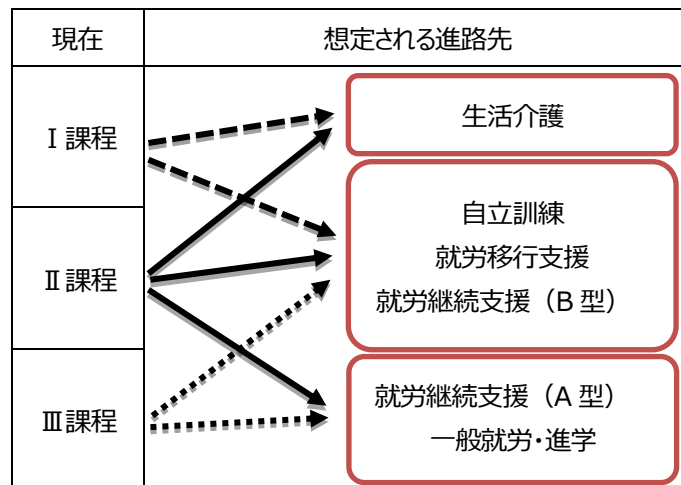


図2 「各課程と想定される進路先」

Q 6 年度ごとに通常学級（Ⅱ課程・Ⅲ課程）内での課程変更はありますか。

例： 2学年（Ⅱ課程在籍） → 3学年（Ⅲ課程）  
2学年（Ⅲ課程在籍） → 3学年（Ⅱ課程）

場合によっては変更することがあります。

A

課程については、進級時にみや中央実態調査や日頃の学習の様子等を踏まえ（Q 4 参照）、学年職員全体で検討し、総合的に判断して決定しています。学年職員全体での検討を重ね、課程変更が必要であると判断し、本人、保護者の意向等も踏まえて、3年生で変更することもあります。Ⅱ課程からⅢ課程、Ⅲ課程からⅡ課程、どちらも変更することがあります。

Q 7 生徒本人・保護者の希望は、課程編成にどのように考慮されますか。

- ① 生徒本人、保護者が希望すれば、Ⅲ課程に入れますか。
- ② Ⅲ課程在籍が適当である生徒がそれを希望しない場合の課程編成はどのようになりますか。

A

- ① 本人・保護者の希望はもちろん必要ですが、希望だけでⅢ課程に決定することはありません。年間を通して、希望する生徒と個別面談を行うなど、担任をはじめ学年職員全体で、様々な視点から、Ⅲ課程が本人に合っているかどうか慎重に検討し、決定していきます。
- ② 本人の希望、意欲がなければ、Ⅲ課程での取り組みはできません。本人や保護者と、希望しない理由やⅡ課程、Ⅲ課程の違いについて話し合いを重ねていくこととなります。

Q 8 高等部 3 学年の生徒（Ⅱ 課程在籍）が、年度途中で「進学」または「一般就労」を希望した場合、適切な支援は行われますか。

A

学級担任、進路指導主事を中心に進路変更に伴う話し合いを行うようにして、本人にあった進路先を考えていきます。本人、保護者の方の願いを受け入れる形で、進めていきますが、場合によっては、就職先と類似した事業所や就労移行支援等を進めるなど、進路先を幅広い形で見るとして一つのことに進路指導を行います。

また、本人の特性に応じた支援を考え、個別の教育支援計画等を使いながら、支援内容を示し、就労先への理解を求めています。

Q 9 高等部 3 学年の学級編成では、最終的に学力及び 2 学年までの人間関係（生徒間）も考慮して行われるのでしょうか。

A

作業実態評価やみや実態調査等の学力面も含め、担任を中心として、生徒に関わる授業担当者全員による話し合いを行い、学年で学級編成を行います。その際には、人間関係（生徒間）も考慮することになり、作業能力、学力に相応した形で進めることはありません。作業能力、学力、人間関係もそれぞれ一つの評価とし、それらを合わせた総合的な判断で学級編成を進めます。

Q 10 多動等のため職員が常時 1 対 1 で対応しているⅡ課程の生徒がいます。このような生徒は、学力や身辺処理能力等がⅡ課程相当であるとしても、Ⅱ課程へ在籍させることが適当なのでしょうか。また次年度にⅠ課程へ移行することは可能でしょうか。

A

高等部では、高等部卒業後のことを考え、Ⅱ課程の生徒は、基本的に一般就労、A 型事業または就労移行支援事業、B 型事業に将来的に進む生徒を在席させたいと考えています。そのため、学力や身辺処理等がⅡ課程相当であったとしても、多動であったり、集団への参加が非常に困難であったりするため、職員が常時 1 対 1 で対応しなければならない生徒については、Ⅰ課程への入学を勧めたいと考えています。

また、入学後におけるⅠ課程への移行は、基本的にできません。但し、本人、保護者の希望があり、Ⅰ課程相当と学校長が判断した際は、学級担任を中心として、教育課程変更に関する会議を開催し、慎重に話し合いを重ねながら、最終判断として、学校長が県教育委員会に提案し、認められれば、Ⅰ課程への移行が可能となります。

## 寄宿舎研究班

### ア 研究のねらい

生活支援計画を活用し、計画的で、きめ細かい指導・支援を行うことにより生徒の生活能力向上につなげていく。

### イ 研究の内容

- 昨年度作成した生活支援計画様式を活用し、全寄宿舎生の生活支援計画を作成。
  - ・本校寄宿舎においては新しい取組である。
  - ・各棟で目標や指導・支援内容の確認を行い、情報共有した。
  - ・生活支援計画に基づく指導・支援の実践を行った。
  
- 目標を集計し、寄宿舎全体の傾向を把握。
  - ・寄宿舎全体としての課題を探るため実施。寄宿舎全体の傾向、棟ごとの傾向を示した。
  - ・寄宿舎全体として見ると社会的生活習慣、その中でも特にコミュニケーションが課題となっている生徒が多かった。(資料1、2)
  
- 生活支援計画の活用について～職員アンケートの実施。
  - ・アンケートから生活支援計画の記入内容や記入時期についての課題を検討した。
  - ・今年度は約9割の職員から「活用できている」「まあまあ活用できている」と回答があった。

### ウ 成果と課題

#### (1) 成果

- 生活支援計画を作成することで年間の見通しをもち、段階的な指導・支援に役立てることができたといった意見が多かった。
- 棟ごとに情報共有の時間を設けることで、他の職員の考えや指導・支援方法等を共有することができた。
- 以前から基本的な生活習慣以外に課題がある生徒が多いと言われてきたが、本研究においてこの課題を明確にすることができた。

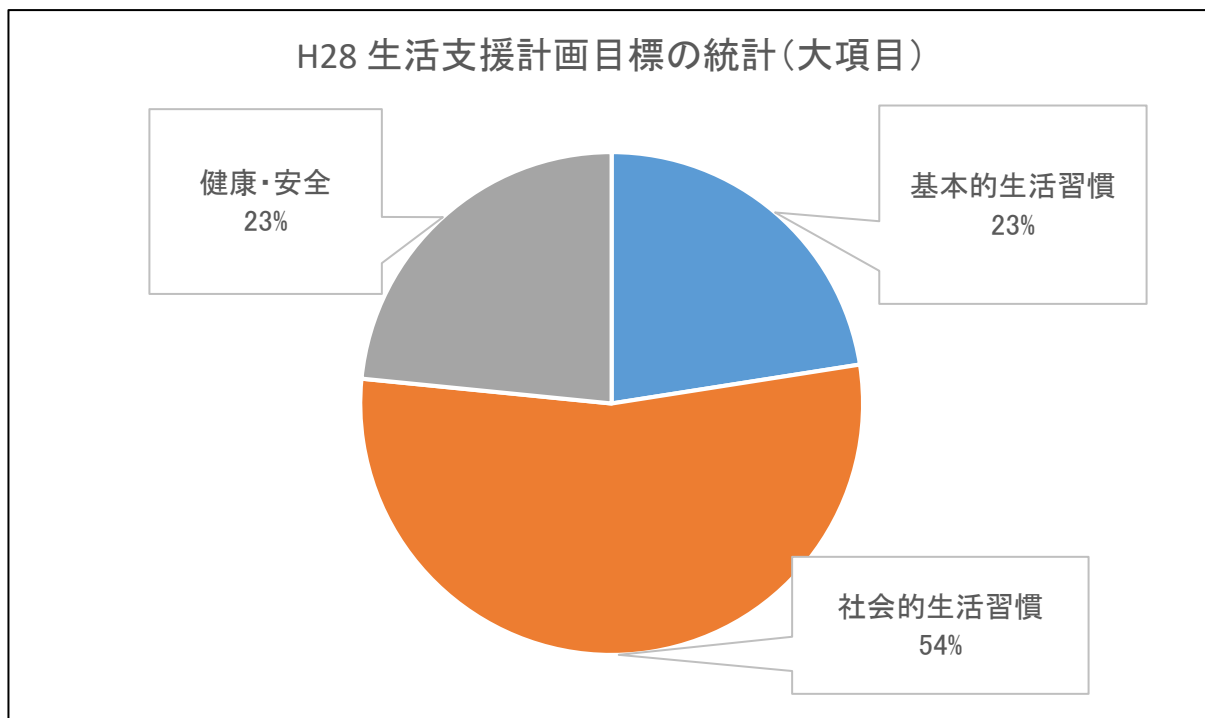
#### (2) 課題

- 全体での情報共有方法について検討する必要がある。
- 記入内容や活用の方法についてはさらに改善していきたい。
- 社会的な生活習慣、コミュニケーションに関する取組を今後は行っていきたい。

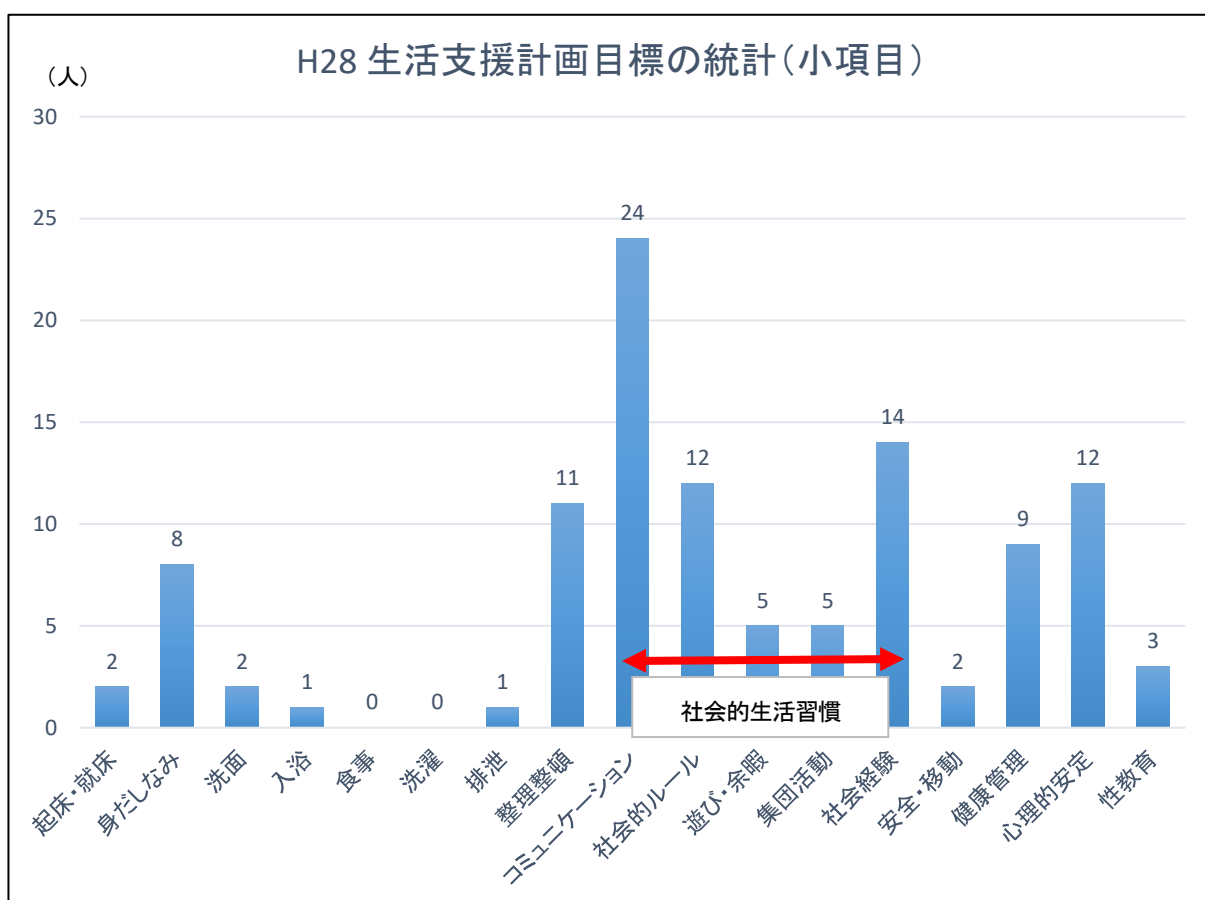
### ※参考文献

東洋館出版社 「障害のある子どものための生活指導～個別の指導計画による日常生活の指導～」

(資料1)



(資料2)



## Ⅸ 研究のまとめと今後の展望（本研究2年次 平成28年度）

### （1）研究全般を通して

昨年度より『共に生きる力』を育む「あたらしい指導と支援づくり」を主題として、課題の検討や新しい指導・支援の方策について取り組んできた。特に今年度は、昨年度の模索的な内容から脱却し、方向性を示してほしいという意見・要望等をいただき、副題として「～授業改善を中心とした学部間連携～」を設定した。

昨年度より研究班の一部を小中高の職員で構成する縦割りの班をつくり、文字通り学部間の連携を意識しながら共通の課題について解決を図るという流れを作ってきた。それが一定の成果を挙げ、これまで以上に他学部の考え方や疑問についても共通理解が深まったり、新たに見直しを図ったりするなど、校内で必要な学部間のより一層の連携が進んだ。大規模な本校にとって学部の垣根を越えて議論したり協働したりすることは実務的であること以上に有意義であり、今後の研究組織編製のアイデアの一つとなりうるものでもある。

さらに今年度については、副題の設定によって方向性を明確にすることで課題等の整理が進み、昨年度編制した16チームから12チームへとスリム化することができた。また12チームのうち小中高混成のチームを9班編制した（残り2チームが中高、高の班、1チームは寄宿舎）。割的には昨年度よりも一層学部間連携を進める体制をとることができた。

昨年度精選した課題から、具体的な解決策や取り組み、また新しいシステムを取り入れた授業研究も行われた。それぞれの研究班で各教科、教科・領域を合わせた指導を問わず、重複しているところはないか、実態に合っていない内容はないか、系統的な指導はできているかなど学部間で指導内容について検証を行い、それらを実際の授業に落とし込む取り組みができた。研究班によっては評価規準についての先行的な研究も行い、今後の研究についての可能性も示していただいた。

すべての班が学部間の連携や接続を意識し丁寧に作られた計画の中で、具体的な取り組みを行い、授業で検証して成果を見出したり、さらなる課題を提示したりすることができたのではないだろうか。

昨年度は、課題の掘り上げが中心となり、結果としてはあまり進捗を感じない形になり、先生方も方向性を不安に感じた部分も大きかったと考えられるが、2年次については明確な方向性をもって取り組むことができたため、手応えを感じた先生方も多いのではないだろうか。

### （2）報告会について

今年度から研究の進捗やまとめについて、報告のスタイルを変更することとなった。

まず、前年度まで行われていた中間報告会である。全職員が職員室に集まって各チームの代表の先生が、持ち時間約5分程度でプレゼンテーションするという形であったが、学部間での研究スタイルになったことから、中間報告は各学部で自分たちの研究の進捗や、新しいシステムの導入について承認を得る形態に変えることになった。これにより、取り組みの最中でも軌道修正をしたり更なる意見等を取り入れたりして厚みのある研究内容に仕上げていくことが可能となった。

次に全体報告（最終報告会）である。以前の報告会は、中間報告会同様全職員が職員室に集まって各班の代表の先生が、持ち時間約5分程度でプレゼンテーションするという形であった。今年度からは報告会の形態を「ポスター発表」とした。各研究チームに所属する全員が自分た

ちの取り組みについて交代で発表。自分の担当順以外は他の発表を自由に参観できるようにした。

本校では初めての取り組みとなるので、まず年度当初の研究概要説明のときに報告会はポスター発表という形態で行うことを提案した。その後2学期途中に具体的な方法や掲示の仕方について資料を用いて提案した。

初めてのことを導入するためには綿密な準備が必要になるが、研究部の先生方や研究チームのチームの先生方のご理解・ご協力によりクリアできた。

報告会は体育館にて実施。壁面にポスター（発表物）を貼った。チームによっては授業や日々の実践で使用している教材や教具を展示して使い方を説明する姿も見られた。発表者と参観者のやり取り

は自由とし、質問等も発表時間内に行えることとした。発表の枠は15分であるが、実際の持ち時間は正味13分程度。残り2分で発表者の交代や参観ブースの選択に充てる。

以前行っていたチームの代表者のみによる報告会と比較すると、全員が発表の機会を得るので、研究の取り組みをしっかりと熟知しようとする気概がみられ、研究に対する取り組み方が非常に前向きになり深みも増していると感じた。

教育課題研究への取り組みについては、組織が大きくなるほど一部の先生の負担が大きくなる傾向があり、関わりの密度が課題となっていた。今年度からポスター発表を導入することで、負担の解消や、研究への取り組み方の意識改革につながったのではないかと考える。もちろん研究なので、内容の深化が最も重要な命題ではあるが、まずは研究に対する向き合い方、取り組み方について意識していただき、これからも更に研究の推進にご協力いただければと考える。

大規模な本校にとって、全職員が同じ方向を向き、学部を越えて連携できることについて、研究での取り組みが一助となるのであれば、推進していく必要はあるし、スタンダードにしていきたいと考える。

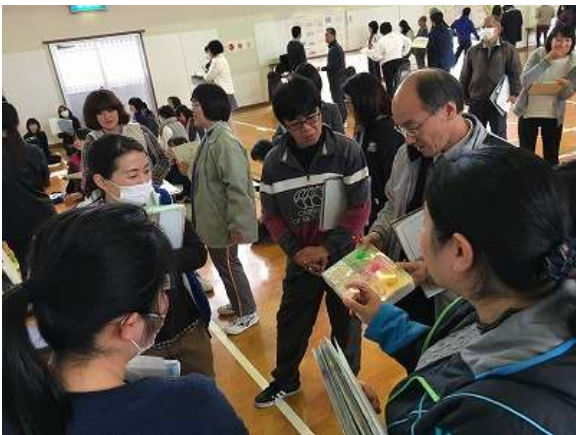
○本日のタイムスケジュール

時間	内容・順番
15:05~15:10	説明・案内
15:10~15:25	1回目の発表、ミーティング
15:25~15:40	2回目の発表、ミーティング
15:40~15:55	3回目の発表、ミーティング
15:55~16:00	～諸準備、休息～
16:00~16:15	4回目の発表、ミーティング
16:15~16:30	5回目の発表、ミーティング
16:30~16:45	6回目の発表、ミーティング
16:45~16:50	講評

※進行は、速急の方で行います。時間の合点を出しますので、移動・交代は、ご協力よろしくお願いたします。

資料画像① 発表のスケジュール





資料画像② ポスター発表の様子



### (3) 成果と課題

今年度の研究については、内容の進捗、中間報告会・全体報告会の変更など、やや大きめに舵を切った印象がある。しかし解決しなければならない課題や先生方が日々誠実にやっている実践等多くは変わっていない。来年度は3ヵ年の最終年次になる。これまでに得られた成果をフィードバックしていただきより充実した研究としてまとめていただきたいと考えている。

2年次を終えての成果と課題について触れる。

大きな成果としては、より進んだ学部間連携であると考え。副題として設定したが、全職員が同じ方向を向いて研究を推進できたことが一番である。昨年度は課題を挙げたり、情報交換がメインとなっていたが、今年度については各チームで創意工夫し、授業研究を行ったり、新しいシステムを作ったり、教材・教具の開発を行ったりしていただいた。

また、学部を越えてゴールに進む研究活動自体が成果であり、今後も大切にしたい“みや央スピリッツ”となるのではないかと。

各学部・寄宿舎の教育課程や取り組みについて、細部までの詳しい説明は難しいとしても、本校としての取り組みや「大切にしたいこと」「身につけさせたいこと」について、全職員が共通理解しどの学部に配属されても、外部から尋ねられても答えられることが理想ではないだろうか。

課題について。研究の内容は素晴らしいものであった。先生方の尽力により盛り上げていただいた。報告会の運営や共通理解の方法については、今後改善の余地がある。年度末の全体報告会については、全員が報告・発表を行うためどうしても全部のチームの発表を聞くことができない。チームの発表時間を確保しつつできるだけ様々なチームの発表を聞くことができるような運営やプログラムについて検討しなければならない。また各チームで取り組んでいる内容について、2学期途中に学部会という形で、それぞれで必要に応じて報告したり、新しい取り組みやシステムの検討・実施について話し合っていたりしたが、必ずしも時間的に十分とは言えない部分もあった。

研究部としては、できるだけ職員に少ない負担でより効率的な研究ができるよう、企画・運営していく。研究を通して、特別支援学校の教員に求められる専門性の向上を、われわれの職務の根底に流れる普遍的なテーマとし、校内研究で取り組める部分のサポートと、自分にとって必要な研修の選択、自己研鑽の必要性を啓発していかなければならない。

また、研修についても全職員のニーズに完全に合致するものを設定することは、なかりハードな課題であるが、アンケートを活用しできるだけニーズに対応できるものを選定したいと考える。校内研究の内容に応じた講座の要望があれば対応したい。

今後も継続して実施されるリレーショナルオープンスクール等の場においても、校内外のニーズを確実に把握し、充実感のある研修、講演等を企画していきたい。また今年度の夏季休業中に、校内にいらっしゃる専門的な知識・技能をもった先生方6名を講師にして、選択式の校内研修を実施した。時間設定は1コマ（1時間弱）だったので、「もう少し時間がほしい」「ほかの講座も受講したい」等前向きなご意見・感想をいただいた。今後は教務部とも連携して、さらに充実させるよう配慮していきたい。

最後に、簡単で甚だ恐縮ではあるが、本年度の研究にご協力いただいた数多くの先生方、全ての方々に感謝したい。次年度の研究については3ヵ年の最終年次となるので、更なるご協力をいただければ幸いである。

教育課題研究

『共に生きる力』を育む「あたらしい指導と支援」

～学部間連携を中心とした授業改善～

(平成27年度～平成29年度)

## 研究のまとめ (2年次)

平成29年3月

### 宮崎県立みやざき中央支援学校

〒880-0121 宮崎県宮崎市大字島之内 2100

学校

TEL (0985)39-1633

FAX (0985)39-6046

寄宿舍

TEL (0985)39-1153

<http://cms.miyazaki-c.ed.jp/9932/htdocs/>